

平成 25 年度 社会工学計画演習 実施要領

13.04.09

■講義概要（シラバスより）

現代の都市における問題群からよく耳にするキーワードを選び、その意味するところを掘り下げ、オリジナルな枠組をもってそれを捉え直し、その枠組から将来に向けて為すべきことを提案するというプロセスを経て、互いに異なる考え方を調査やディスカッションを通じて収束する方途を模索する。グループ課題。

■演習テーマ（平成 25 年度）

「川崎市梶ヶ谷の地域計画」

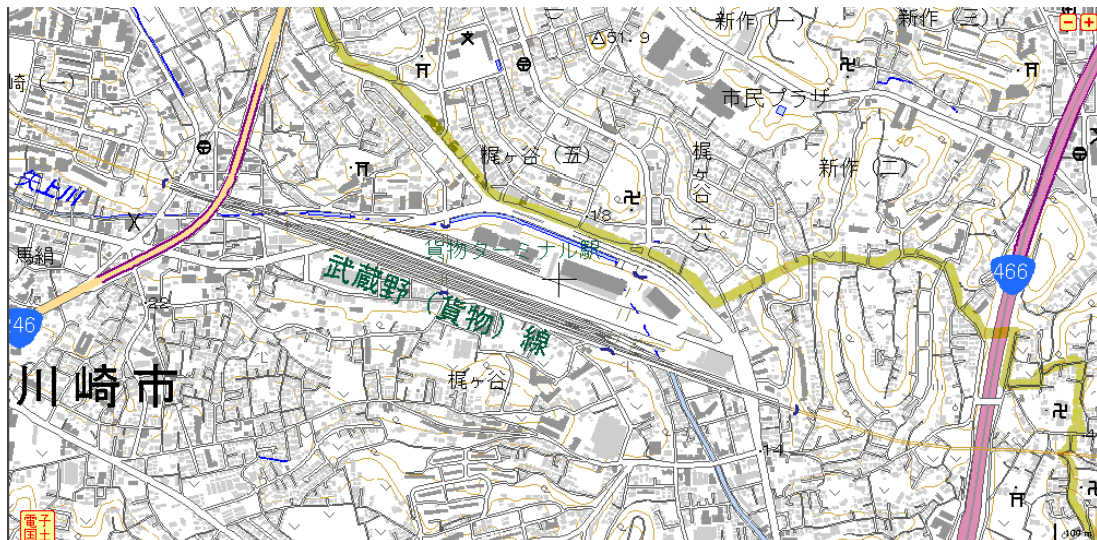
川崎市の台地部に位置する梶ヶ谷地域は、高度経済成長期以降に開発された新興住宅地である。しかしそれだけではない。東京都心と神奈川県・関東以西を結ぶ大動脈の道路や鉄道路線が複数走っており、商業や物流の拠点も立地している。特徴的な地形や歴史的背景によってもたらされている、郊外特有の豊かな緑環境も地域の特徴の一つである。

しかし開発から 40 年以上の時間が過ぎ、開発当初と比べて取り巻く環境が大きく変化する中、新興住宅地と発展してきたこの地域も、これからのあり方を検討する時期にきていると言えよう。少子高齢化・人口減少社会、環境問題、ワークスタイルなどの人々の生活の変化等を踏まえ、新しい時代にふさわしい郊外住宅地としての価値やその姿を模索し、実現に向けた取り組みを準備することが必要である。つまり、将来も魅力を有する郊外住宅地として継続して発展していくための方策が求められている。

そこで本演習では、梶ヶ谷貨物ターミナル駅を中心とした梶ヶ谷地区（及びその周辺）について、その特性を活用しながら地域の課題を解決するような計画提案を行うプロセスを学習する。ただし、地域の諸状況について、資料調査や実地踏査を通じて洗い出し、対処すべき重要かつ独創的なテーマを設定する必要がある。その上で、根拠（データ）に基づいた合理的な課題解決方策を検討し、計画という体裁で提案を行ってほしい。

□計画条件

- 計画対象地：川崎市梶ヶ谷地区（及びその周辺）
- 計画期間：2013 年より概ね 20 年間（目標年次：2033 年）
- 計画内容：梶ヶ谷地区の郊外住宅地としての魅力を向上する内容とし、テーマを選定する。
- 計画の条件：JR 貨物・梶ヶ谷貨物ターミナルの敷地を活用可能な資源として意識する。但し、現存する鉄道路線（貨物線）は維持するものとし、貨物ターミナル機能については、存廃は自由とする。



■対象とする地理的範囲

上の地図は梶ヶ谷貨物ターミナル駅周辺の地形図である¹。計画対象となる地理的な範囲は、概ね、西は東急田園都市線・国道 246 号線、東は第三京浜で囲まれた地域とし、北部・南部は以上の範囲と対応する広さとするを基本とする。但し、選択した地域の課題（テーマ）によっては、この範囲では広すぎるケース、或いは狭すぎるケースがあるだろう。従って上記の範囲はあくまで基本であり、計画提案に応じて合理的な対象範囲を班で設定することが可能である。いずれにしても計画書（レポート）内で範囲とその設定条件を説明することになる。

■スタッフ

教員：十代田（主担当）／齋藤／中井／坂野／土肥／真野／杉田／津々見

TA：新谷玲／高橋拓磨／村上良（以上、齋藤研）／橋口結樹（十代田研）／中野真人（真野研）

■最終成果物と成績評価

次の 3 つの最終成果物をもって、成績評価を行う。上記の 8 名の教員による評価の平均値が成績（点数）となる。報告書のパーツは、各課題の提出（中間発表会ごと）において作成されていくので（途中で以前のパートを見直し・修正することはあるが）、各課題間で論理的整合性がとれるよう、しっかりと作っていく必要がある。

- | | |
|---------------|---|
| 最終成果物
（予定） | 1. 「梶ヶ谷地区の〇〇に関する地域計画」 報告書
2. 計画内容を表すパネル（A 1 × 2 枚）
3. 上記の内容に基づくプレゼンテーション（パワーポイント） |
|---------------|---|

■グループ編成

グループは 1 班 3 ～ 5 人程度（履修者数により若干変動する）で初回に編成を行う。

¹ 財団法人日本地図センター「電子国土ポータル」 <http://portal.cyberjapan.jp/index.html>

■スケジュール

- 第1回 4/ 9 (火) ガイダンス・班分け・K J 法レクチャー
- 第2回 4/16 (火) 現地視察、基本情報の収集・整理
- 第3回 4/23 (火) ブレインストーミング、K J 法作業、
問題の絞り込み、調査方針の検討、発表準備
- 第4回 5/ 7 (火) ★中間発表1 (現地概要および問題の構造化、調査の方針)
アンケート調査レクチャー、調査の設計
- 第5回 5/14 (火) 調査のチェック、調査の実施
- 第6回 5/21 (火) 調査の実施、調査結果の取りまとめ
- 第7回 5/28 (火) 計画コンセプト・計画内容の検討、発表準備
- 第8回 6/ 4 (火) ★中間発表2 (調査結果の分析と計画コンセプトについて)
- 第9回 6/11 (火) 計画コンセプト・内容の修正、追加調査の実施
- 第10回 6/18 (火) 追加調査の実施、計画素案の作成、発表準備
- 第11回 6/25 (火) ★中間発表3 (計画素案について)
- 第12回 7/ 2 (火) 追加調査の実施、計画素案の修正確認
- 第13回 7/ 9 (火) 最終計画案の作成
- 第14回 7/16 (火) ☆エスキースチェック、発表準備
- 第15回 7/23 (火) ★最終発表会 (計画の最終提案)・講評・打上げ

※中間発表会では、パワーポイントを用いて班ごとに発表を行う。基本は「発表 10 分＋質疑 10 分」だが、詳細は前週に発表する。

※中間発表会は 15 時頃に終了する日もあるが、発表会での質疑も踏まえ、当日のうちにその後の作業について班でミーティングを行うことが望ましい。16:30 頃まで各日時間を確保すること。また必要に応じて、上記日程以外でも作業を行うこと。

※7/9 は最終成果物の制作に関して、助教や T A が相談を受け付ける。

■メールリングリスト

※登録してあるアドレス以外（携帯等）からも送信できます。

履修生ML： pwse_student@sun.mei.titech.ac.jp

教員ML： pwse_prof@sun.mei.titech.ac.jp

ティーチングアシスタント（TA）ML： pwse_ta@sun.mei.titech.ac.jp

■スタッフ連絡先一覧

個別に相談に対応できるので、できれば事前にアポイントを取って訪ねること。

研究室		氏名	居室	E-mail
十代田研	准教授	十代田 朗	西 8W-606	soshi@mei.titech.ac.jp
	助教	津々見 崇	西 8W-609	ttsutsum@sun.mei.titech.ac.jp
齋藤研	教授	齋藤 潮	5F 501	usaito@soc.titech.ac.jp
中井研	教授	中井 検裕	5F 507	nnakai@soc.titech.ac.jp
坂野研	准教授	坂野 達郎	5F 504	tsakano@soc.titech.ac.jp
土肥研	准教授	土肥 真人	5F 534	mdohi@soc.titech.ac.jp
	助教	杉田 早苗	5F 535	ssugita@soc.titech.ac.jp
真野研	准教授	真野 洋介	5F 533	ymano@soc.titech.ac.jp

■社工計画演習室の使用について

- ・演習室は随時使用可能だが、掃除・ゴミの分別・ゴミ捨てを適宜行うこと。火気・タバコ厳禁！
- ・作業テーブルの脚が特に壊れやすいので、大切に使うこと。
- ・コピーボードやホワイトボードの使用後はちゃんと消すこと。
（もしくは班の間で使用ルールについて取り決めに交わすこと）

（以 上）